

耕作放棄地への漆植栽

目的：岡崎漆のブランド化、耕作放棄地対策、SDGs 貢献など

場所：岡崎市農業支援センター、休耕田



育苗

鳥取大学の協力を得て、発芽率の向上を図った。発芽した苗は、岡崎市農業支援センターのハウスで育苗した。



土壌調査

植栽前に、土壌硬度、透水性の試験を実施した。礫はあったものの、根の伸張に問題があるほどの固結状態ではなかった。

ただし、元々水田だったため、20～30cm 深さに不透水層があり（下写真赤線間）、植栽する場合は、この層を打破する必要があることが判明した。なお、この層より下の透水性は問題なかった。





耕起

不透水層を打破することを目的としてバックホウによる打ち起こしを実施した。

その際に、根を伸張させる場所も確保するため、植栽位置を中心に、列状に十字に施業した。

獣害防止柵設置

漆はシカの食害を受けるということであり、獣害防止柵を設置した。

今回は、通常のコメ網ではなく、軽く、取り扱いの容易な樹脂製の製品を使用した。

植栽

令和3年11月に植栽した。

ポット苗 H=0.3 程度で、植え付け間隔は3mとした。

生育状況

令和4年3月の状況

もう少しで開葉する雰囲気である。